

平成26年度「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」結果から見た本校の課題等

<p>教育方針 学校経営</p>	<p>本校の掲げる教育目標については、生徒保護者ともに昨年度より評価が高くなっている。特に保護者他からは+評価80%となり、本校の教育目標についてご理解を得ていると思われる。通学の様子については、保護者83%生徒80%と毎日の学校生活を前向きに過ごしている様子が見える。</p> <p>一人一人の能力を伸ばしているかの質問項目については、生徒の-評価が依然高く、個に応じた指導のあり方についてさらに研究をしていく必要性を感じる。</p>
<p>家庭との 連携</p>	<p>一斉メールサービスの提供については、緊急時だけでなく、毎月の行事予定を配信することにより、受信者の側からの確認と徹底の機会になっていると思われる。特に保護者他からの評価は88%と高く、家庭との連携の一つの手立てとして、さらに役立つ利用方法について、考えていきたい。</p> <p>ホームページをリニューアルし、「多治高トピックス」のページのアップと更新も増えており、情報の伝達に一役かっていると考えているが、広報と周知が足りないかと思われる。今後ホームページを利用した情報発信について考えていきたい。</p>
<p>教職員</p>	<p>生徒の「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い」という設問については昨年度比+12%で、学校として組織としての教育相談の充実を意識して取り組んできた効果が表れ始めていることがわかる。クラス担任と生徒の間の懇談の機会もしっかりとられているので、今後もこの懇談の体制を継続していきたい。</p>
<p>学習指導</p>	<p>学習指導について、ここ数年多面的な生徒の評価や、希望者制の補習への変更などから、多様な学力幅のある生徒にも対応し、それが評価されつつある。(生徒対象:学習指導NO11、12、13)一方保護者対象のアンケート結果からは、学習指導項目16、17について昨年度と比較すると微増、微減である。保護者へは本校のシステムや体制の変化など、生徒ほど直接に伝わらないことも多い。したがって適切な情報発信を心がけることや、丁寧な保護者への説明が必要である。と同時に常に外部からの評価を検証し、より適切な学習指導を研究し模索していく姿勢が大切である。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>生徒指導に関するほとんどの項目で昨年度よりも肯定的な数値が増えた。特に、「遅刻指導」「みだしなみ指導」「マナーやモラル指導」に関しては、保護者・生徒とも70%以上の数字があるので、今後も指導を継続していきたい。</p> <p>「いじめ指導」と「教育相談」に関しては、肯定的意見が50~60%台にとどまっているので、校内組織と係の対応の周知を図る必要がある。</p>
<p>進路指導</p>	<p>昨年度と比べプラス評価が増えた。特に生徒からの評価が向上した。</p> <p>この背景には、集会やクラスでの意識付けが功を奏したことや発行物や行事が生徒に受け入れられたことも想定される。また、3年生に関しては補習の希望者制を全面的に導入したことが、参加率約7割という結果と併せて考えると好意的に受け入れられたものと判断される。</p> <p>しかし、学年ごとのデータがないために各学年の取り組みがどのように評価されているか不明なため、行事ごとの評価をとり生徒の声をHPなどで反映させることが今後も必要である。また一人一人の進路指導を充実させるために、懇談会に向けて進路指導部より担任に向けて案内やアドバイスができる態勢もとれるように配慮したいと考える。こうした取り組みによりプラス評価をさらに充実させたい。</p>

<b>健康管理 安全指導</b>	<p>生徒、保護者ともに昨年度と比べ、プラス評価が増えた。特に地震や台風などの災害時における対応についての評価が良くなっている。</p> <p>今年度は各地で大雨による被害が起きており、多くの命を奪う災害となっている。そのためか生徒や保護者の大雨による災害意識が、高くなっているのではないかとと思われる。しかし市町村別に発令される気象警報の対応については、徹底できていない現状は否めないため、大雨だけではなくあらゆる気象状況においても、適切な対応ができるよう生徒への指導や、保護者への情報発信が今後の課題であると思われる。</p>
<b>学校行事等</b>	<p>特別活動部</p> <p>講演会や体験学習など、授業以外の学習機会の設定について、プラス評価が生徒、保護者共に上昇している。体験学習だけでなく、昨年度からの「Have a Dream for 100」Project 講演会を継続実施することにより、生徒が将来へ夢を持ち、生き方を考える機会を与えていきたい。また、学校行事や部活動については、昨年度より数ポイントであるが上昇傾向を見せた。特に生徒の評価はどちらも80%以上と高い数値を表しており、継続していきたい。しかしながら、ロングホームルームが行事等に吸収され、自己探求のできる場が減少していることも課題である。また、活動の様子や活動結果をホームページや生徒会新聞等を利用し発信していくことが必要である。</p> <p>ボランティア活動は、依然、否定的・わからないという回答が多い。生徒指導部との連携や部活動を通じて活動を行っているが、その活動を報告できる場を設定できるとよいと考える。</p>
<b>学校独自 項目</b>	<p>自主性(生徒昨年比+14%、保護者昨年比+2%)、3年間を見通した進路指導(生徒昨年比+8%)、部活動(生徒昨年比+12%、保護者昨年比+5%)とプラス評価の増加が見られる。卒業後を意識した教育活動についても評価が高くなる傾向にある。</p> <p>後期に計画される生徒向け講演会、保護者向け進路説明会などについては、要望を取り入れて講話内容を検討するなど、利用価値が高いと感じられるものにしていきたい。</p>